
コイの歌

きつねぼうや

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

コイの歌

【Nコード】

N8836A

【作者名】

きつねぼつや

【あらすじ】

池の岸にたち、歌をうたうおじいさんは、池の中でコイたちが、おなかをすかせていることなど知らないのです。コイたちは、おじいさんがパンを持っていることを知っていて、そのパンを食べたかったのです。ところが、ひょんなことから、コイたちはおじいさんのつえにたたかれそうになってしまいます。はたしてコイはパンにありつけることができるのでしょうか。

池の水の中からコイたちが見あげています。青い空と白い雲。さきほどこから、動かない白い雲。

コイたちは、おなかをすかせているのです。

やがて、一匹のコイがよろこびの声をあげました。

「きたあー、パンがきたぞー」

コイたちはうれしそうに尾ヒレをふりました。

あるコイは水面から、ヌツと顔をだしました。またあるコイは水面から、パシヤリと跳ね上がりました。つえをついたおじいさんが、パンを持って、池に近づいてきます。

おじいさんは池の前までくると、背すじをのばし、二、三回せきばらいをしました。そして、大きく息を吸いこむと、大声でうたい始めました。

おじいさんの歌声は勇ましく、力強かったので、池の中はもちろん、とても遠くの方にまで響きました。

コイたちは驚いて、池の底に身をかくしました。

そのかわりに、たくさんハトが、おじいさんの歌声をききつけて、あちらこちらから集まってきました。

おじいさんがうたい終わったとき、まわりはハトでいっぱいでした。ハトたちは、まるい目をクリツとさせて、おじいさんを見ていました。

おじいさんは、ハトたちが自分の歌を聞きに集まってきたと思って、うれしくなりました。ですから、パンを小さくちぎって、ハトたちにやりました。

ハトたちは、待つてましたと、食べました。

おなかが一杯になったハトたちは、それぞれどこかへ飛んでいきました。

おじいさんは、ハトたちを見おくと、再び大きく息を吸いこみ、大声でうたい始めました。

コイたちは、みんな、水面に集まりました。パンをもらうためには、ハトのように、もっと目立ったほうがよいと思ったからでした。池の底にいては、パンにありつけないと考えたのです。

コイたちは口々に言いました。

「おなかすいたよー」

「ぼくたちにもパンをおくれよー」

「さつきから待ってるんだよー」

池中のコイが、水面にきて、口を大きくパクパクとさせました。

おじいさんにも、コイたちの様子が目にはいりました。まるで、コイたちが自分の歌に合わせて、いっしょになってうたっているようにみえました。おじいさんは、うれしいやら、おかしいやらで、「アツハツハツハー」

と、大笑いしました。勇ましく、力強い大笑いでした。

ところが、あまり勢いよく笑ったので、笑い声といっしょに入れ歯まで、飛びだしてしまいました。入れ歯は池の底へと沈み、水面には、波紋が広がりました。

おじいさんは、大慌てで、池の中をのぞきこみましたが、よく見えません。パンをもらえると勘ちがいのしたコイたちが、我さきにとおじいさんの前につめかけてきたからです。

おじいさんは、しかたがないので、つえを池の中につっこんで探しました。

これに驚いたのはコイたちの方です。今度こそはパンが入ってくると思っていたのに、おじいさんのつえが飛びこんできたのですから。

「あぶない、にげる！」

コイたちも必死です。

「どうして、おじいさん、ひっかき回すんだあ」

「なんだ、おじいさん、ぼけちゃったのか」

そのとき、一匹のコイが、池の底に沈んでいる入れ歯をみつめました。

「これだ！ おじいさん、これを探しているんだ」

「よし、返してやろう」

「でも、あぶなくて、おじいさんに近づけないぞ」

「だいじょうぶ、おれにまかせておけ！」

この池で一番大きなコイが、名のりをあげました。

そのコイは体をねじるようにして、背中に入れ歯をのせると、スーッと水面まで浮かびました。そこで、体をくねらせて、入れ歯を尾ひれにのせかえました。その見事な身のこなしに、周りのコイは感心しました。

それから大きなコイは、岸边でつえをふりまわしているおじいさんを、ねらいにねらって、尾ひれでブンと放り投げました。銀色にきらめく水しぶきとともに、入れ歯は宙に飛びだしました。

入れ歯はおじいさんめがけて、グングン飛んでいきます。おじいさんの顔に向かって、どんどん迫っていきます。おじいさんはびつくりして、

「うあー」

と、叫びました。

すると、大きく開いた口の中に、スッポリ入れ歯が飛びこみました。

おじいさんは、入れ歯をみつけて返してくれたコイに、お礼をしようと思いました。ちぎったパンを、たくさん池へ放りました。水面にパンが広がりました。

池のコイたちが、待ちに待っていたパンなのです。大きなコイから小さなコイまで、池のコイみんなが、先をあらそい、水面のパンを食べはじめました。

コイが食べているあいだ、おじいさんは、「コイの歌」をやさしくうたいました。

『およげ およげよ 池のコイ
たつぷりおよいで
おなかをへらせ

たべろ たべろや 池のコイ
なかよくたべたら
おひるねだ

ねむれ ねむれよ 池のコイ
ぐっすりねむって

おきたらあそべ 』

コイたちが夢中でパンを追うために、池は波だち、しづきが舞い、水音がにぎわいました。

おじいさんは、この水音が拍手のように聞こえ、歌をほめられて
いるように感じて、とてもうれしいのです。

池の上の白い雲は、ふわりふわり、遠く空へと、うごきだしま
した。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8836a/>

コイの歌

2010年10月15日22時39分発行